

会 議 録

会議名	第13回まちづくり委員会		
開催日時	平成23年8月31日(木)午後7時00分～9時00分		
場 所	消防庁舎3階 小会議室		
出席者 (敬称略)	(委員) 赤羽昭比古、牛丸喜美子、本多啓次、水野隆幸、有賀寛子、倉澤有里子、関彰子、関根渉、中村文昭、林善教、原美子、高木清房 町) 一ノ瀬補佐、木村、殿内	出席人数	
		委員	12人
欠席者 (敬称略)	(委員) 熊谷久司、千田富子	町	3人
		計	15人
会議次第	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 協議事項 (1) ワークショップ「地域づくり活動ハウ ツーマニュアルを作ろう(パート2)」 (2) その他 4. その他 5. 閉 会		
資 料	(配布資料) 次第、ワークショップまとめ、支援メニューの体系表、地域づくりのプロセス		
会議結果	ワークショップにて地域づくりの課題の解決方法等を話し合いました。		
発言者	発言の内容		
副委員長	開会： 朝晩涼しくなりましたが、残暑が厳しい状況です。本日も地域づくりについて議論 いただきたいと思ひます。		
委員長	教育委員の視察研修で東日本大震災の現場へ行ってきました。南三陸町では役場が全て流れて しまい、次に行った女川町も壊滅状態でした。また我々が気になっていた児童108名の 内74名が犠牲になった大川小学校にも行ってきました。本日は先月まとめた内容について 具体的なアイデアを出していただきたいと思ひます。		
	配布資料の確認		
事務局	本日は前段で前回の集約したものを振り返りながら、後段で職員とつくるための方針を決め たいと思ひます。ハウスマニュアルに対する事務局のイメージは明日から一步踏み出せる ようなノウハウの詰まった、より具体的なものをイメージします。前回出していたご 意見をより具体的に仕上げていきたいと考えています。また、地域づくり支援メニューにつ いてですが、町が持っている支援メニューでどこかにお役に立てればと思ひます。それを体 系的に整備して、マニュアルに入れることによって、より地域づくりの支援にも繋がると思 ひます。本日の進め方については、以上ですが、ご質問等ござひますか。		
A委員	最初の説明と体系表の関係はどのようになりますか。		
事務局	今まちづくり委員会でやっていることは、町民の代表の方々の目線で作ろうと しています。地域づくりのプロセスをまとめた、地域づくりのプロセスをご覧下さい。地域 づくりを始めるきっかけとして、問題意識がまず必要だと思ひます。第一歩踏み出したとき に、いかに仲間集めるか。充実させるためには輪を広げる。活動をスムーズに展開させるた めにはどうしたらよいか。どこかで行き詰る事もあると思ひますので、活動の見直しをして 再構築するといった時系列のマニュアルになると思ひます。現在まで初期段階までの議論が かなり出ていると思ひます。これがマニュアルの一つでそれと平行して支援メニューも議論 できればと思ひます。		
事務局	それでは、若者参加・後継者不足の解決に対して検討したいと思ひます。		
B委員	その前に地域づくりというものは一つできた組織を続けていくのか、やりたい人が集まりと にかく沢山の組織を作っていく事を目指すのか。この中で何を施行していくのが、マ ニュアルの作り方に影響しますし、議論する必要があると思ひます。企業のように本当に後 継者が必要なのがまだ個人的に解りかねています。この項目は今あるものに後継者をつ つっていくための議論だと思ひます。		

C委員	具体的な話をすると、東小学校でやっている旭日ふれあい塾という組織があります。これは来年で10年になり次から次に後継者がいて継続しています。毎年毎年作っては消えていく組織で仲間だけで活動している組織もあるので、それによって変わると思います。まずは辰野町をどのように活性化していくかが一番の基本だと思います。その中で、細かい後継者がどうのといった話は必要ないと思います。
D委員	私は、ある程度持続するものが有効だと思います。一回で終わるものはイベントでありボランティア活動としての持続はないと思います。一つの団体の活動内容が毎年変わることは良いと思います。その団体が持続していくことが大切だと思います。単発のイベントだけやる団体がいても賑やかになりますが、それだけになってしまうので、やはりある程度持続して町の活性化、地域の活性化に繋がればよいと思います。新しい団体を育てていくことも大切ですが、その団体が持続していくために作ればと思います。
事務局	まちづくり委員会としてマニュアルの視点をどこに置くのかと言ったご意見ですが、いかがですか。
A委員	参加は活動への参加、組織への参加の2つがあると思います。活動が持続することが重要だと思いますが、その辺の議論が整理できればと思います。
委員長	それを決めないと先に進めないと思います。
事務局	まず気楽に参加して、面白ければやればいいし、面白くないならやらなければよいといった発想で参加する事はとても大切だと思います。その時々で場合によっては止めて再構築といった議論もあると思います。これは皆様からいただいたご意見です。それをどちらか白黒で判断するのではなく、活動の過程でそういった話はつきまとうと思います。
B委員	確率論で10のグループがあれば、その内1つ、2つは5年、10年繋がるとして、中にはすぐ消えるものもあると思います。それをどれも否定してはいけないと思いますが、願わくば長く続けばと誰もが思います。従って長く続けるためだけに、マニュアルを作るのではなく、挫折した場合や、作って失敗した例やどうして上手くいかなかったのか等、次に失敗しない、挫折しないマニュアルに置き換えられると思います。我々もそういった認識でなければいけないと思います。仮に自分で組織を作ろうとしたら、辰野の中でこの組織に教われば長続きの方法が分かる、また、失敗例が分かるようなものがあればと思います。
事務局	失敗事例については、マニュアルに載せづらいところもあります。
B委員	基本的にマニュアルは成長時代に成功事例だけを載せていましたが、今は一般的に失敗事例がかなり多くなっています。
事務局	地域づくりは前向きで、希望を持ったようにしたいと思います。どこかで長続きするような目線でマニュアルづくりができればと思いますが。
B委員	失敗した裏返しの手書き方をすればと思います。
事務局	マニュアルの作り方の話が出ていますが、その議論まで掘り下げていくのがよいのか、それを頭の隅に置いて、本日のメニューを進めていただくことがよいのかいかがでしょうか。
A委員	既成の団体がマニュアルを必要としているか、疑問に思うわけです。事例があったら参考になるとは思います。組織の中でも議論されることもあると思います。初めて活動する方、向けに作成するのであれば考えやすいと思います。
事務局	活動は単発でなく長期的ビジョンをもって進めていただくことが行政としても願いです。活動の振り返りや再構築は常につきまとうと思います。その辺を考えてどこかで役に立てればと思います。
E委員	今の自分の立場で考えることがおこがましいと感じます。地域活動をやることに対する方法は自分達で考えることでこの委員会で議論してもどの程度参考になるものができるか疑問です。地域の活動をやるのであれば、例えば防災訓練に参加する人が少ない事を取っ掛かりに話をするのであれば良いですが、町全体の活動に対してマニュアルができるかという自分の立場からおこがましいです。
D委員	活動をしている方が考えればよいというのは確かにあると思いますが、例えば財政的に厳しいからどうしたらよいかといった時に、支援制度がマニュアルに載っていればよいと思います。

E委員	どのように財政的支援を受けるかといった内容であれば分かりますが、活動をマニュアル化することはおこがましいと感じます。
D委員	前回は話しが出ましたが、人・物・金にいき詰ったときに、どうすれば良いかが、ヒントとして載っていればよいと思います。完璧に書ききってなくても良くて参考になると思います。まずは、本日の検討課題でもある、解決策に対する具体策を話し合ってみて、支援メニューが難しければ本格的な物でなくても、活動のマニュアル的なものになればと思います。
E委員	おしつけみたいな議論をしても仕方がないと思います。例えば数が減ってきて困っている団体に対してマニュアルを持っていってもどうなのかなと思います。
H委員	話が戻っていると思いますが、この委員会の目指している方向性に向かって検討していると思いますが、このような題材が出てきたのであれば良いと思います。
事務局	行政として今一番の課題は、少子高齢化人口減少です。10年先を見据えると高齢化率も高まっていきますし、現在の活動がそのまま同じに続けて行けるか、若しくは自然消滅的なものを待つかが、大きな議論の分かれ目だと思います。その時々を考えれば良いのかもしれませんが、町として傾向は分かっているので、ここで何らかの地域づくりの道筋を皆様方をお願いしたいと思います。もう少しフラットに将来に対して示しうる方向性みたいなものを議論いただければと思いますが、いかがでしょうか。
I委員	本年度のこの会が始まって、ハウツーマニュアルを作ると決めて進めてきているので、ここで必要ないといった話がでると元に戻ってしまいますし、今まで何をやってきたのか分からなくなります。まちづくり地域づくりを考えると、組織が消えて、生まれることを繰り返す事も一つの活性化だと思いますが、逆に継承していかなければ困るものもありますので、両面で考える必要があると思います。どういうマニュアルを作るかは、これからの話し合いだと思います。まず、方針として、マニュアルを作ることは皆で決めたことなので、このまま進めていただきたいと思います。
E委員	作ることを反対しているのではなく、作るのであればもう少し町の職員が3人5人でなく、大勢も参加するような議論をして欲しいと思います。ここだけで簡潔せずにもう少し広い範囲で意見を集める体制を作って欲しいと思います。
事務局	今の話は、本日の後段でご意見をいただくつもりでしたが、どの時点で職員が係わるか職員の協働意識の醸成の問題もありますので、支援メニューを作る過程で一緒に検討するように考えています。
A委員	マニュアルというと最初に受け取る印象はハウツー本のイメージです。例えば、若い方が自分でまちづくりをやりたい場合にやり方がわからないのでマニュアルを見ていただくといった意味合いが一つあると思います。もう一つは町として若い方達と一緒にどのようにまちづくりを進めていくかといった意味合いもあります。それは指針に近いものになりますが、ここで議論するものは指針的なものが入ってくると思います。
事務局	若者参加でいくと泥地フラググスがあります。若者が自主運営で情報発信からすべての運営を行っていく、若者が地域活性化を行う一つの考え方だと思います。例えばそれを行政が指針的に示せば可能でしょうか。自分が活動した中で見出してきた一つの考え方なのでそれが若者に受け入れられるかは難しいと思います。
A委員	このマニュアルは行政が出すものですか。それとも我々が作るものですか。
事務局	委員会で作成するものです。協働は行政が押し付けでやるものではないことは、従来から協働のまちづくり指針で示していますが、それがルールだと思います。
A委員	例えば若い方達に参加を促す場合、年配者が牛耳ることが多く参加しづらいと思います。参加して下さいという構造そのものに問題があると思います。何かハウツー本に指針的なものがないと変えられないと思います。
事務局	以前指針を作成しましたが、それが足りなければ補っていく必要があると思います。
A委員	それは具体的にですよね。今回は抽象的な部分がありますので。

事務局	具体的なものがマニュアルだと思います。抽象から一步踏み出した物がマニュアルですから、そうしないと協働のまちづくりに進めないからと言った議論からスタートしています。協働ってなあにといったカラー刷りのものも作りました。次にステップアップしていく方法としてより具体性のあるものにしていきたいと言う事で年度当初にご提案しました。
B委員	今すぐ組織があって維持またはより大きく発展成長させるジャンルと無から有を作り生んでいくためのハウツーと2つある事は分かりましたよね。今何も無いところは、シミュレーションをしてみれば良いと思います。逆に組織があるところは何かがあれば助かるのかがあれば具体的に言ってもらえば良いと思います。
事務局	そこで活動や組織をスムーズに運営するためにはというところで役員がすべてお膳立てしてしまう運営方法があると思います。それをあえて参加者で考えて、遠回りになってしまうかもしれませんが、最終的に活動へ主体的に取り組んでいただく近道であるといったことが、前回までの意見の中で皆様から出ています。従って色々な場面での運営がありますが、どこかで共通点がありマニュアルといっても差し障り無い表現になるかもしれませんが、考え方を少し整理したり展開していくきっかけになるような表現づくりが必要になると思います。
F委員	基本的なことですがこの委員会の位置づけが諮問答申を行うのか、マニュアルを発行する場合はまちづくり委員会ですのか、決定権がある委員会なのか。もし諮問的なものであれば、提言的にまとめれば良いと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	町として諮問をして答申いただくような組織ではないと考えておまして、協働のまちづくりの分野は行政とて一つの協働分野でしかないという指針に書いておきます。皆が同じレベルで話をしていくという立ち位置です。今回のマニュアルは2面性を持っているので、支援メニューと一緒にわかり易い表現で考える事によって、お客様がどの窓口に来町されても協働の意識を持って職員が対応できるようにと考えておますし、一方で地域活動に触れられている皆様から導き出していただき、両方が合わさったものがこのマニュアルだと思います。諮問答申よりも文字通り協働で導き出して作るマニュアルだと考えています。
F委員	町がやる仕事では無いから、権限的にはここで決めたものが正式になるということですか。
事務局	町がこれに対してどのように責任を持っていくかがポイントだと思います。どこかで意見交換の場を持ちたいと思います。
F委員	あくまで協働のまちづくりに絞るということですね。
A委員	原則論と実際は違うと思います。原則論だと住民主体でやることに町が口を出してはいけないといった考えだと思いますが、この委員会は町が主催していますし、出向機関になることと役割を果たすことは別なので、やはり町が役割を果たすべきだと思います。
事務局	協働のまちづくり指針を見ただけならばと思いますが、協働活動の領域が初めから決まっております。つまり、町民活動と行政活動に対して、協働活動は曖昧な領域となっております。右肩上がりの時代は行政サービスをかなり進めてきています。ただし考えてみると行政の分野でなく地域に根ざした活動もあるといったものが原点だと思います。従ってもう一度振り返っていこうということが、協働の分野だと思います。
A委員	役割を果たすことと出向機関は別なので、役割だということを行政も認識してでなければ、分かりにくいと思います。
D委員	新しい委員会が立ち上がる度にこういった話が出ます。それをすると進まないの、今言ったことすべて含めて3期目として、今まで作ってきたものをより具体化するよう進めてきているので、そのためにも本日の作業を進めていければと思います。
G委員	具体策を進めていくうちに自ずと見えてくると思います。
B委員	協働のまちづくりは、行政だけでなく、住民だけでなく新しいものを作ることがベースだと思います。能代市では、まちづくり委員会で予算の一部に係わってきています。行政だけでなく、住民だけでなく、議員だけではないそういった価値を認めた方達で地域を運営していかないと成り立たなくなるということで始めたと思います。
C委員	もう時間になりますし、本日の検討事項を3グループに分かれて検討してみればと思います。

副委員長	私もE委員と同じ意見を持っていました。ここまできたら、この方向に向かって進めていけばと思います。私も基本的には組織の中で検討するものだと思います。
委員長	私が委員長として行政が変わった年度当初に、物としては作れませんが、何か町の活性化に繋がるものを考えて3月には何かできればよいと思っていました。今までの議論も分かりましたので、ここまできたら、この方向で進めて行ければと思います。
事務局	C委員から提案いただきましたが、グループに分かれて議論を深めていただきたいと思いません。
	<p>3グループに分かれて話し合い</p> <p>○1グループ ～若者参加・後継者不足をいかに解決しているか？～ 「ライフスタイル」、「ニーズの把握」、「子どもの地域参加」 ・イベントや活動時間を工夫する。それぞれに合わせた時間を設定する。 ・世代間の気持ちが分かりづらいので、区単位で話し合いの機会を持つ。←世代間交流会（平出ではやっている） ・学校から声が係ると参加率が高いので、地域行事へ子どもが出るように学校から声かけをしてもらう。 ・定年退職した方達が何かやりたい時にどのような会があるか、具体的にどのような活動をするか分からないので、シルバー世代のボランティアのマッチング講座を開くと良い。松本で行っており、市民活動をしている団体が市民活動サポートセンターに集まり、活動の紹介などを行っている。就職相談会のような形で行っている。</p> <p>○2グループ ～参加者不足・参加者の固定化をいかに解決しているか？～ 「運営方法」 ・マスコミにコメントをつけて持ち込むと良い。 ・読み物は読まないのではたたるチャンネルを利用して視覚にうったえればと思います。 ・企業に活動の企画を持ち込む。 「趣味・楽しみ」 ・メンバーの満足を優先して行う。 ・町民開館等が市民活動に積極的になる。（場所の提供等） 「固定化もOK？」</p> <p>○3グループ ～運営方法・広報不足をいかに解決するか？～ 「運営方法」 ・自分達の活動の事例発表会を開催する。 ・上手くいっている活動に相談できるように、グループを紹介する。 ・上下関係でなく、フラットな組織が必要。（参加してもらうとかではなく、一緒にやろうよといった気持ちで上から目線のような運営はやめる） ・町HPに自分達のブログなどをリンクさせていく。 ・メディアを活用する。</p>
事務局	より具体的で分かり易いメニューができてきたと思います。事務局で時系列的に整理させていただきたいと思えます。より具体的なマニュアルと言いつつ、幅広い活動団体に当てはまるような表現にしていきたいと思えます。
事務局	行政としてお金・人等様々な支援メニューを体系表で示しております。皆様に分かりやすくお知らせする為に、補助制度・人的支援等を体系的に示した上で、個別具体的に作りこんでいけばと考えております。また、これをまとめると最終的に厚い物になるような気がしますが、次回そういった話もできればと思います。
H委員	このまちづくり委員会は中間的な部分を担うということでしょうか。

事務局	地域活動をやっている方達のメニューと行政側の支援と両方になります。
H委員	手引書にもありますが、行政や住民等の中に本来まちづくり委員会が入って線で繋げていくことが役割だと思います。支援メニューの体系表を作るだけでなく、活動についても触れますか。
事務局	はい。100団体あれば100通りの運営方法があると思います。すべてを記載できるか分かりませんが、委員会として把握できる限り載せていきたいと思います。
事務局	支援メニューについては行政として掘り起こしをしたいと思います。行政運営上硬い言葉で書いてあるので、それをやわらかい表現で記載していきたいと思います。まず、支援メニューだけを出して次回ご提案させていただきます。また、分かりづらい表現あればどこかで付け合せできる機会を設けて、意見交換をしたいと思います。次回9月は支援メニューを提案させていただき、10月くらいに担当部署とヒアリング等をしてマニュアルを作成し、11月には素案ができればと思います。皆様よろしいでしょうか。
	一同賛同
	次回委員会9月28日(水)午後7時00分～
副委員長	閉会